



政治経済学部  
「シーナカリンウィロート大学  
短期留学プログラム」参加者の声(3)  
村井亮太 / 佐藤遼 / 遠藤まい / 西史世

**村井亮太（経済学科3年）**

タイでの1ヶ月間の短期留学の間でもっともよかったと思っていることは、多くのタイ人の学生と交流できたことです。今回訪れたすべての大学において学生と交流することができ大変有意義でした。特にチェンマイ大学、チュラロンコン大学でディスカッションを行ない意見を交換しあったことは今後外国人と付き合っていく中で大変参考になるものであったと感じております。他にも今後の人生の糧となるような経験をたくさんすることができこのプログラムに参加できてとても良かったです。また同様のプログラムがあれば是非参加したいです。

**佐藤遼（地域行政学科4年）**

私は今までタイに訪れたことがなく、また、初めての英語圏ではない国での留学でした。なぜタイに行くの？とたくさんの人に聞かれました。正直なところ、自費で行くので留学費用が他の国よりも安い、という不純な理由でした。しかし、行けることが決まり、タイについて自分なりに調べてみたところどんどん興味がわき、英語圏外に行く、というのは世界がぐんと広まる気がしました。そして行って見て改めてタイの良さを全身で味わってきました。

このプログラムでは、たくさんの経験を通して宝物をいくつも得ることができました。この経験を活かし、新たな一歩を踏み出してみたい、と思います。

**遠藤まい（経済学科4年）**

今回の短期留学において、特に私の印象に残っている出来事は、明治大学タイ王国紫紺会の歓迎会に参加させていただいたことです。顧問でいらっしゃる藤井先輩を始めとして諸先輩方は、私達学生を本当に温かく迎えてくださりまして、タイでの生活やお仕事のお話、そして明治大学での学生時代の思い出など、様々な事柄について非常にフランクにお話ししていただきました。歓迎会は終始和やかな雰囲気が進み、世代を超えて交流を深める皆様を見て、タイにおいても変わる事のない明治の絆を強く感じました。

諸先輩方からいただいた激励のお言葉は、この短期留学を通じて大きな支えとなっております。また、タイに来る機会がございましたら、是非皆様にお目にかかりたいと考えております。

**西史世（経済学科4年）**

日本では味わえない多くの体験と学び、出会いを得た。各大学で用意して頂いた特別講義では、

タイ語での簡単な会話を習得、報道やネットでは知り得ないタイの政治経済の実態を知れた。文化的・歴史的背景や社会問題を知ってから、見る遺跡や、視察、交流、生活は、一段と深いものになった。機関訪問や、特別講演では、様々な視点を通して、タイの実情や、日タイの深いつながりに触れた。私達を暖かく迎えて入れてくれたタイの学生とは、授業で議論を交わしたり、自由時間に観光や食事に連れて行ってもらったりして交流。一生ものの友だちを得た。タイで得た体験と学び、出会いを、今後の大学生活、勉学、キャリア、将来の日タイ関係の発展に生かす。

---

**MEIJI UNIVERSITY**